破滅

梅川昭美の三十年

服を脱げ！　脱がんと撃ち殺すぞ！　女子行員を銃口でこづいたりしながら、梅川はゆっくり歩き回った。女子行員の髪をつかんで床を引きずり回したり、胸に銃口を押しつけ、撃つぞ！　と脅したりした。そのたびに女子行員らは……

毎日新聞社会部　編

晩聲社
ルポルタージュ叢書　17

破滅—梅川昭美の三十年　　ルポルタージュ叢書17

1979年8月10日　初版第1刷

編　者　毎日新聞(大阪)社会部
装　幀　杉浦康平＋鈴木一誌
発行者　和多田 進

発行所　株式会社　晩聲社©
〒101　東京都千代田区神田駿河台3—2　山崎ビル
電話 (03) 255—4014／0030
振替・東京 6—50696
印　刷　㈱祥文堂印刷所
製　本　ナショナル製本
用　紙　共和洋紙店

＊定価はカバーに表示してあります。乱丁落丁はお取り替えいたします。

破滅

梅川昭美の三十年

服を脱げ！　脱がんと撃ち殺すぞ！　女子行員を銃口でこづいたりしながら、梅川はゆっくり歩き回った。女子行員の髪をつかんで床を引きずり回したり、胸に銃口を押しつけ、撃つぞ！　と脅したりした。そのたびに女子行員らは……

毎日新聞社会部　編

晩聲社
ルポルタージュ叢書　17

円

その母が文盲で無教養であったことから、少年は次第に母を軽蔑するようになり、その言いつけに従わず、我儘な生活態度を身につけるに至った。

中学校入学時よりは、喫煙、暴力行為などにより補導されることが度重なり、また母が不在勝ちであるところから近所の不良少年達が少年宅に集まることが多くなった。

中学三年生頃よりは現金、テレビ、バイクなどを母にねだり、これが容れられないときは、母を引きづり廻し、刃物を突きつけ……資料より

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.c

破滅

梅川昭美の三十年

砂田 編

晩聲社
ルポルターシュ叢書 17

破滅——梅川昭美の三十年・目次

第一部　破滅――梅川昭美の三十年……11

プロローグ・二人だけの葬式　13

1　「オレの名前を覚えておけ」　19

ひとりっ子／最初の暗転／母の意地／幽霊の絵／冬景色／乾いた自供／あのままの男／蓄積爆発／新光生活／「昭」と「照」

2　「お袋のことだけが心配や」　55

父と子／過客／共通体験／カズノコ孝行／母と子／引田町／「劫財」の星

3　「生き地獄を見せてやる」　79

出奔／根なし草／牡丹と竜／やさしい男／寒い関係／二連銃／犯罪幻想／肉体信仰／一〇円の借金／「マルゴー六九年」／甘えの壁／ソドムの市／主張なし／破滅への助走

第二部　密室――梅川昭美の四十二時間……129

1　認定　131

2　残虐　139

鮮血／籠城／仲間
3 屈辱 151
絶望／儀式
4 説得 159
包囲／清算／手紙
5 焦燥 171
拘禁／家族／限界
6 突入 185
作戦／決断／射殺
資料 197
① 梅川の若妻殺人事件に対する広島家庭裁判所の決定
② 鑑別結果通知書
あとがき 207

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.c

第一部　破滅――梅川昭美の三十年

プロローグ・二人だけの葬列

昭和五四年一月二九日午後六時、大阪市西成区南津守、津守斎場の第一号火葬室で、左側頭部、右首、右肩の三カ所に弾痕のある男の遺体が焼かれた。石油バーナーが火を噴いてから「遺骨」になるまで一時間半しかかからなかった。

大阪府警狙撃班に射殺された三菱銀行猟銃強盗・人質事件の犯人・梅川昭美の、三〇年と一〇カ月余の生涯も、燃えつきた。

翌三〇日朝、七三歳になる母の静子と、付き添いの叔父の手で拾われた遺骨は、母の胸に抱かれて夜の瀬戸内海を渡り、本籍地の香川県大川郡引田町に帰った。午後一一時二〇分引田駅着の高徳線下り最終列車で、人目を忍ぶ帰宅だった。

三一日の引田町は夕刻からしのつく雨。母が間借りするかまぼこ製造所二階八畳の雨戸を閉め切り、午後五時半から、母と叔父のたった二人で葬儀が営まれた。木箱の上に設けられた小さな祭壇には、ま新しい位牌と小さな骨壺。供花も、焼香に訪れる人もなく、激しい雨音が、読経の声と母のおえつをかき消した。

「寂しいのう。寂しい葬式やった。罪は罪。でも死んだらなんですのう……。殺された人たちの身内のこと……、殺した方の家族のこと……。人間は悲しいもんじゃ……」

世間体もあることだし内々に拝んで貰えんか、と頼まれ、わずか三〇分間の葬儀を終えた真言宗御室派積善坊の住職・大岡真雅は、言葉にならぬ言葉を残して、静まり返った暗がりの町を寺にひきあげた。大岡が位牌に書き残した梅川の戒名は「智月寂照信士」――。

俗名を偲ばせる一字は、「昭」ではなく、なぜか「照」だった。

抵抗できぬまま梅川に射殺された三菱銀行北畠支店長・森田浩司（四七歳）と行員・萩尾博（二〇歳）の三菱銀行葬は、それから三日後の二月三日午後一時から、大阪市東区御堂筋の本願寺津村別院、通称北御堂で営まれた。別院輪番をはじめとする僧一〇人の読経の中、祭壇に飾られた二人の遺影は白菊の花に埋まり、知事や銀行協会長など知名人の花束が回廊にあふれた。参列者は二〇〇〇人におよび、約二時間にわたって焼香の列がつづいた。

たった二人の葬列と、二〇〇〇人の会葬者——。この二つの葬儀が、すべてを言いつくしていた。生涯に五人の生命をほしいままに奪い、国をあげての憎悪のうちに破滅した男への涙などは、どこをさがしてもありそうにない。聞こえるのは、雨戸を閉め切った八畳の暗がりのなかで、身を堅くしている母親のしのび泣きだけだ。

事件はあまりにも異常で、悪魔的ですらあった。

一月二六日午後二時半から二八日午前八時四二分にいたる四二時間余に、大阪市住吉区万代東一丁目一五番地の三菱銀行北畠支店で演じられた惨劇を、人質事件や銃器犯罪の増加という一般的傾向から論評するのはためらわれる。

強盗に入った銀行で、四人の生命をいとも平然と奪い去り、四三人を閉じ込めた梅川は、銃の力を背にした密室の絶対支配者として、過酷で屈辱的な服従を人質に強いた。それは金銭だけが目的の古典的な銀行強盗とは、明らかに様相を異にしていた。そこでは、人間の尊

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com